

高等学校 芸術科（書道）学習指導案

第3学年 選択 平成25年 月 日 ()	実用の書学習指導案 第1校時	場所 書道室	指導者 安生 成美	
単元名	書写技能検定3級【硬筆の部】対策 一行書編一			
単元目標	<p>○書の伝統と文化に関心を持つことで、書表現を基にした行書が書けるよう主体的に取り組む。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>○字形の構造や美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想、表現を工夫する。 (書表現の構想と工夫)</p> <p>○創造的な表現をするために、参考とする書表現の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表す。 (創造的な書表現の技能)</p> <p>○日常生活における書の効果や伝統、文化について幅広く理解し、その価値を考えると実生活へ生かせる文字のよさや美しさを創造的に味わう。 (鑑賞の能力)</p>			
単元の 評価規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
	書の伝統と文化に関心を持つことで、書表現を基にした行書が書けるよう主体的に取り組もうとしている。	書表現を基にすることで、字形の構造や美しさを感じ取り、自らの意図によって構想、表現を工夫している。	創造的な表現をするために、参考とする書表現の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技術を身に付け表している。	日常生活における書の効果や伝統、文化について幅広く理解し、その価値を考えると、実生活と結び付けた文字のよさや美しさを創造的に味わっている。
題材（教材）	<ul style="list-style-type: none"> ・『書Ⅰ』（光村出版） ・『新訂 ペン習字教本』（教育出版） 			
単元（教材） について	<p>(1) 生徒観：起筆と収筆が明瞭な書体が楷書であることを理解し、楷書と行書が異なる書体であることが判断できる。しかし、行書が早書きによる書体と認識する傾向が強く、点画を整えて書こうとする意識が低い。</p> <p>(2) 教材観：点画の連続や省略に留意しながら、行書という書体について理解を深めるとともに、文字を整える意識を高めることができる。</p> <p>(3) 指導観：楷書の文字の整え方を基に、点画の連続や省略による書体が行書であることを繰り返し練習させる。</p>			
指導計画 (学習計画)	主な学習活動		主な評価	
	1	3級に頻出する漢字の部首を中心に、主な部首を確認する。	・3級に頻出する漢字の部首（約7割）を覚えようとしている。 (書への関心・意欲・態度)	
	2	部首別に、行書における点画の連続や省略を学習する。	・行書における点画の連続や省略を理解している。 (書表現の構想と工夫)	
	3	「蘭亭序」を鑑賞すると共に、硬筆での臨書を試みる。	・「蘭亭序」の特徴を理解し、書におけるよさを文章で表現している。 (鑑賞の能力)	
	4	古典を基に、基本的な点画の整齊、文字の整え方を考え、練習する。	・書き順に留意しながら適宜適切な速度で書き、文字のバランスに配慮をしている。 (創造的な書表現の技能)	
5	手本や参考資料を基に、自ら作品を添削する。	・古典や手本、参考資料などと見比べることで、自分の書き癖などに気付き、添削しようとしている。 (書への関心・意欲・態度) (鑑賞の能力)		

本 時 案 (第2時)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楷書を基にして、筆画の連続する書体が行書であることを理解しようとしている。 (書への関心・意欲・態度) ○ 3級に頻出する漢字を中心に、点画の連続や省略を部首別に覚えている。 (書表現の構想と工夫) ○ 点画の連続や省略を理解した上で、適宜適切な速度で文字を整えて書いている。 (創造的な書表現の技能)
-------	---

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前単元、前時までの活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3級に頻出する部首にはどのようなものがあったか、配布プリントで確認させる。 ○ 楷書とはどのような書体であったか確認させる。 	
2 本時の目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「蘭亭序」のプリントを配布し、行書を学ぶことを意識させる。 	
行書という書体を理解し、部首別に点画の連続や省略を覚えよう。		
3 行書について考え理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配布した「蘭亭序」を見ながら、生徒が考える行書とは何か発表させる。 ○ 楷書とどのような部分が異なるのか、具体的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楷書を基にして、筆画の連続する書体が行書であることを理解しようとしている。 (書への関心・意欲・態度) <行動の観察/記述の点検> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ー努力を要する生徒への手立てー 具体的な文字から連続する点画に着目させ、楷書には見られない送筆に気付かせる。 </div>
4 点画の連続や省略について部首別に覚える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3級に頻出する部首を中心に、筆画がどのように連続し、または省略が見られるのかを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配布プリントを参考にしながら、筆画がどのように連続し、または省略が見られるのかを理解し、繰り返し練習している。 (書表現の構想と工夫) <記述の点検> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ー努力を要する生徒への手立てー 机間指導を通して個別に手本を書き、助言を行う。 </div>
5 行書を適宜適切な速度で、文字を整えて書く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何名かの生徒に、黒板に楷書で書かれた文字を行書で書かせる。 ○ 文字を書く速度や書き順に着目するよう助言する。 ○ 黒板の文字と見比べ、留意点や自分の書き方と異なる部分をプリントに書き込ませる。 (自分の文字を添削させる。) ○ 本時のまとめと確認を行い、配布プリントを回収する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行書を早書きの文字ではなく、書体として認識し、適切な速度で書いている。 (創造的な書表現の技能) <記述の点検> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ー努力を要する生徒への手立てー 板書する生徒の書き順や速度に着目させる。 </div>